

今日から我が家の分別係

ごみ分別ゲーム

学校の関連学習単元

小 4/ 社会
住みよい暮らしをつくる（ごみのしやりと利用）

プログラム 概要

対 象

幼 小1 小2 小3 小4 小5 小6 中学 大人
◎ ◎ ○ ○ ○ ○

分 野	時 期	時 間	人 数	場 所	講 師	費 用
廃棄物	通 年	45 分 (1 時限)	40 人 (1 クラス)	理科室等	1 人	無 料



廃棄物

ねらい

- ・家庭や学校など毎日の生活から出るごみの量や処理について知る。
- ・ごみを減らすために、正しいごみの分別の方法を身につけ、実践できるようにする。

実施内容

- ・浜松市のごみの量や処理するための費用についての説明を聞く。
- ・家庭から出るごみのサンプルを使った分別ゲームを行う。
- ・ごみの分別方法を確認しながら、分別のポイントを紹介する。

事前準備

◇受講者が準備するもの ◆講師が準備するもの

- ◇3 ～ 4 人ごとにグループ分けをする（最大 6 グループ）。
- ◇教室の机等を移動して、ゲームを行うスペースを作る。
- ◆分別ゲームで使用するバスケットに模擬ごみを入れておく。

使用する材料・道具

◇受講者が準備するもの ◆講師が準備するもの

- ◇筆記用具
- ◆ごみのサンプル
- ◆買い物かご
- ◆ごみラベル
- ◆分別収集カレンダー
- ◆浜松市指定ごみ袋
- ◆ワークシート

講座活用のワンポイントアドバイス

- ・「ごみはトラベラー」のプログラムと併せて受講すると、理解を深めることができます。

実施機関

浜松市環境政策課（浜松市環境学習指導者）

下記連絡先へ実施日の 2 か月前までに申し込んでください。浜松市環境学習指導者を講師として派遣します。実施の決定後、事前打合せが必要なため、講座実施の 1 週間までに講師へご連絡ください。

問合せ・申込先： 浜松市環境政策課 TEL：053-453-6149 Mail：kankyou@city.hamamatsu.shizuoka.jp
申込方法はホームページをご覧ください。



プログラムの展開例

時間	内 容	指導のポイント
導入 10分	○浜松市のごみの現状についてクイズを出題して説明する (ワークシート1～3を記入) ① 浜松市全体では、一日にどれくらいのごみが出るのか？ ② ごみを処理するためには、どれくらいお金がかかるのか？ ③ ごみを減らさないとどうなるか？ (平和最終処分場について説明する) ○正しい分別がごみ減量につながることを伝える ・ごみのサンプルを見せて、使い終わったらどうするかと問いかける。 (例) 菓子箱⇒「燃えるごみ」でなく「雑がみ」と「容プラ」  雑がみ 容器包装 プラスチック	・ワークシートを使って、クイズの回答を紹介しながら、ごみが増えると困ることを伝える。 ・ごみ処理にお金がかかる ・ごみを捨てる場所がない ・ごみのポイ捨てが増える ・ごみが増えると地球温暖化が進む ・ごみだと思っていたものが資源であることに気づかせる。 ・ごみを減らすためには、正しく分別して、リサイクルすることが大事であることを伝える。
体験 20分	○分別ゲームをする ① 各グループにごみのサンプル(資源物含む)が入ったバスケットを配る。 ① グループごとにごみのサンプルを、分別ラベルのある場所ごとに分別する。 	・ごみのサンプル例 (生ごみ、靴、プラ製おもちゃ、枝、洗剤の容器、発泡スチロール、お菓子の袋、ペットボトル、スチール缶、アルミ缶、手鏡、乾電池、蛍光灯、自転車、新聞紙) ・実際の出し方にあわせて行う。 (指定ごみ袋の使用やコンテナ出しなど) ・迷っているグループには、ヒントを与えたり、家庭に配っている「分別収集カレンダー」を見せたりする。
まとめ 15分	○答え合わせとごみ分別のポイントを紹介する ・分別ゲームの結果を確認しながら、間違っているものは、分別のポイントを紹介する。 ○リサイクルマークを紹介する  ○ごみ減量のポイントを紹介する (これからはこんなこともやっていこう) ・物を大切にする。 ・こぼれたものをふき取るときは、ティッシュペーパーを使わずに、雑巾や台布巾を使う。 ・使い捨て製品は使わない。 ・買い物に行くときは、マイバックやマイバスケットを持参する。	・正しい分別をすれば、ごみになるものが減り、リサイクルできるものが増えることを伝える。 ・合言葉は、 『混ぜればごみ、分ければ資源』 ・商品についているマークが表す意味を紹介する。 ・ごみを減らすためには、ごみをつくらない・出さないことが大切であることを伝える。 ・合言葉は、『もったいない!』

